

【熊本公德会賞】

ぼくの大好きな町天水

玉名市立小天小学校 4年 松村 泰河

ぼくの住んでいる天水町は、みかんの木にかこまれた自然ゆたかな地域です。春には、このみかん山は、白い花がいっぱいさき、ちょうちょやハチがとび回っています。夏には、青々とした山に変わっていきます。そして秋には、おいしいオレンジ色のみかんがたくさんなって、見上げると、みかん色にそまった山が美しく広がっています。

ぼくは、名古屋という街から引っこして来ました。それまでのぼくは、野菜やくだ物は、スーパーマーケットでしか見たことがなく、作っている人のこともあまり想ぞうがつきませんでした。そして何より、きせつによって変わっていく自然といっしょにすごしたことはありませんでした。

みかん山を下りていく片道3キロメートルの道のりが、今のぼくの通学路です。登校はんの3人で毎日通っています。

と中で、ハチとも出会います。ハチにさされるのがこわくて、みんなで全力で走ります。でも、ちょうちょを見つけると、ぼうしでつかまえたりします。

畑では、おじいさんやおばあさんが、朝早くから仕事をしていて、ぼく達に声をかけてくれます。

「おはよう。気をつけて。」

「おはようございます。行って来ます。」

ぼくは、いつもうれしい気持ちになって、学校に行くことができます。

ぼくは、この町の秋が一番好きです。理由は、山がみかんの色になり、甘ずっぱいかおりがして、気持ちがいいからです。

畑のおじいさんやおばあさんも、ニコニコして、しゅうかくしています。そして、天水町のみかんがスーパーマーケットや色々な所で売られているのを見ると、とてもうれしい気持ちになります。天水町の人たちが、1年間がんばって作ってくれたみかんです。ぼくたちも毎日いっしょに見てきたみかんです。

ただのスーパーマーケットにならんでいる物ではありません。

ぼくは、天水に来て、物に作った人の心が込められていることをあらためて知りました。みかんだけではなく、ぼくたちが食べている物や使っている物にも、心という物があると考えようになりました。

ぼくも、日々の生活の中でたくさんの事を学んで、熊本の心を大切に作るゆたかな心を持っている大人になりたいです。